



世羅町の予約受付けセンター

口16、119人のうち、3、738人の登録があり、平成20年度では延べ26、014人の利用者があった。初期投資費用1890万円、平成20年度経費2740万円、利用料金780万4千円、町からの補助金は1958万6千円であった。利用者の多数は、70〜89歳までの高齢者で全体利用の77パーセントを占め、利用目的としては病院、商店での買い

物、公共機関への移動が大半を占め、交通の確保に役立つている。一方、世羅町は、平成16年10月、三町が合併、新しく世羅町となり、三町に走っていた福祉バスの廃止、さらには路線バスの10路線を廃止、平成18年9月、「せらまちタクシー」として誕生、デマンド交通に切り替わる。福祉バスへの補助金4200万円がデマンド交通補助金2740万円に

891万円、町の補助金が2727万円であった。利用者は70歳以上が大半を占め、利用場所は医療機関、買い物への移動が大半を占めている。3、調査の結果、意見

あると考える。一、視察先の二町には総合病院、中央病院があるが、本町では隣接する御坊市に総合病院があることから、エリア外運行という面から、バス、タ

クシー業者との十分な話し合いが必要である。高齢化が進む中、町民の期待も大きいことから、上記の各課題の解決、地域協議会での承認、交通事業者との関係

調整を得られ、現在導入しているコミュニケーションバスや交通事業に支出している補助金等との費用効果を考慮の上、デマンドタクシー導入を図られたい。

代わることで1500万円の町補助金削減となった。平成21年の人口は18、457人であり、年間3万7〜8千人の利用者があ

る。初期投資は2017万円、平成20年度事業費が3度事業費が3あり、十分検討の余地が

一、乗客が1人だけであつても動くが、誰もい

なかつたら動かないので、ムダな動きがない。一、本町においても、路線バス、コミュニティバスの廃止、見直しも含め高齢者、谷々の多いわ

が町では魅力ある事業であり、十分検討の余地が

重度心身障害児(者)医療費補助制度において患者負担増になるような制度の見直しを行わないことを求める意見書

重度心身障害児(者)医療費補助制度は、重度心身障害児(者)の人たちの健康の保持と福祉の増進を図り、安心して受療できるとの趣旨で、和歌山県と市町村が実施している制度である。現在、和歌山県内には多くの重度心身障害児(者)があり、本町においても220名の重度心身障害児(者)がいる。その多くの

況にある市町村にとって、これを単独で実施することは、極めて困難な状況にある。よって、重度心身障害児(者)が安心して受療できる体制を堅持する必要があると考

記

- 1、重度心身障害児(者)医療費補助制度において患者負担増になるような制度の見直しを行わないこと。(提出先) 和歌山県知事